

【小学校・中学校・義務教育学校用】

令和2年度学校評価 結果・学校関係者評価

達成度（評価）	
A	十分達成できている
B	おおむね達成できている
C	やや不十分である
D	不十分である

1 前年度 評価結果の概要	前年度は、学校教育目標に「学ぶ楽しさの追求」を挙げ、①職員の資質向上②基礎学力の定着③教育環境の充実に取り組んできた。具体的には、「島おごし」について総合的な学習の時間に取り扱い、地域と連携することで島を活気づけたいとする前向きな姿を学ぶことができた。また、学習したことをTwitterボットで情報発信を行ったり、プログラミング教育に生かしたりするだけでなく、他の離島の児童や島を訪れた団体にプレゼンテーションすることでコミュニケーション能力の伸長も図ってきた。各教科においては、電子黒板だけでなく、電子辞書やタブレット端末など様々なICT機器を活用して基礎学力の向上に努めてきた。今後は、児童の視野をさらに広げて自ら関わろうとする意欲を喚起するとともにICT機器を手段としてコミュニケーション力の向上を目指すための取組みを進めていく。生活面では離島という狭い環境の中、いじめ等の問題もなく穏やかに過ごしているが、大きな集団で過ごす中学校進学後を見据えた指導が今後の課題である。健康・体づくりにおいては、児童の主体的な取組みが体力や健康に対する意識
2 学校教育目標	学ぶ楽しさの追求
3 本年度の重点目標	<ol style="list-style-type: none"> 1 職員の資質向上（・児童の実態・特質に応じた指導の工夫・ICTを活用した授業の工夫） 2 基礎学力の定着（・コミュニケーション能力を育てる指導の工夫・基礎的学習内容の習得を図る工夫） 3 教育環境の充実（・ICT機器の充実・地域との連携）

4 重点取組内容・成果指標	5 最終評価
---------------	--------

(1) 共通評価項目				最終評価		学校関係者評価		主な担当者
評価項目	重点取組		具体的取組	達成度（評価）	実施結果	評価	意見や提言	
	取組内容	成果指標（数値目標）						
●学力の向上	●全職員による共通理解と共通実践	○学力向上対策評価シートに示したマイプランの成果指標を達成した教師80%以上。	・教師間でマイプランを共有するとともに、校内研修で取り組んだり、学期ごとに内容の情報交換を行う。	A	・マイプランの実施状況アンケートで「そう思う」「大体そう思う」で100%。どの学級も確実に取り組んでいた。更に高学年は、2学期から「100ます計算」や「ひっ算による計算」の時間を設定し正確さと速さが身についた。	A	・来年度から島留学制度が始まることで競争心が出てくる反面、劣等感を持つかもしれないので気を付けて指導してほしい。	宮崎
	○基礎学力の定着	○朝のスキルタイム90%以上実施。	・言語活用練習や活字慣れのために子ども新聞を読んだり、書いたりする活動を行う。	A	・児童アンケートで「朝のスキルタイムの取り組みの成果」で「そう思う」「大体思う」で100%。保護者アンケートの「朝のスキルタイムでの言語活動の取り組みの成果が出ているか」で「そう思う」「大体思う」で100%だった。	A	・個人差もあるが、毎日少しずつ身につくものだと思うので現在の取組みを続けてほしい。	
●心の教育	●児童生徒が、自他の生命を尊重する心、他者への思いやりや社会性、倫理観や正義感、感動する心など、豊かな心を身に付ける教育活動	○学期に1回、人権・同和教育の視点で道徳教育に取り組む。 ○学期に1回、「心のアンケート」を実施して肯定的な回答の児童を80%以上にする。	○人権・同和教育の参考資料を基にして、各学年で指導を行う。 ○心のアンケートの中で自分が頑張っている事やできるようになった事を記述する欄を設ける。 ○保護者や地域の方々と連携した体験活動を実施する。	A	・心のアンケートを毎学期実施し、100%の児童が肯定的な回答をした。また、普段は見えない児童の心情や回答を得て、個々の対応に活かすことができた。 ・人権同和教育の視点からの道徳教育を学期に1回実施し、児童の学校生活に対する考え方が肯定的になるよう取り組んだ。	A	・コロナ差別等もあるので逆の立場になったらどう思うか、人を思いやる心を身につけてほしい。 ・保護者も閉鎖的な面があるので、児童が親を叱るくらいであってほしい。	岩野
	●いじめの早期発見、早期対応体制の充実	○2か月に1回、学活の時間を活用して担任と児童の個人面談を行い、気になることや悩み等を聞く。	○児童から得た情報を基に、月1回の児童支援委員会で情報共有を行い、全職員で問題解決を図る。	A	・児童支援委員会を月に1回実施し、児童の近況について共通理解した。 ・心のアンケートの自由記入欄を参考にして個人面談を行い、気になることを聞き取って解決につなげた。	A	・行動する勇気、止める勇気など勇気について指導してはどうか。 ・地域住民との交流を増やして情報交換をしてはどうか。	
●健康・体づくり	●望ましい生活習慣の形成 ①運動習慣 ②食習慣 ③病気・ケガの予防	①委員会活動を通して、児童主体の体力向上に向けた啓発や活動を学期に1回以上は行う。 教師側からも学期に1度は季節や体育行事に応じた提案等を行い、より望ましい運動習慣について、考えさせる。 ②食に関する興味を持たせるために栄養指導と朝食指導を学期に1回行う。マナー指導については、給食時間に全職員で行う。 ③自分の身体に関心を持ち、健康を維持していけるような知識をつけさせるため、月に1度朝の時間に健康アドバイスをを行う。 各健診後2週間以内に事後措置を行う。	①週に1度は全校児童で20分休みになわとびに取り組み、回数を記録し、委員会個人ごとのグラフを作成させる。 学期に1度は、体育行事等で個人めあてを設定させ、活動後、体力の向上や運動への意識がどう変化したのか振り返りをさせる。 ②朝食アンケートをとりながら栄養についての指導を行う。マナーについては、配膳の仕方、箸の持ち方、姿勢などの指導を行う。 ③学期に1回発育測定をする。健康診断の結果を活用しながら、個人にあった保健指導を行い、発達段階や季節にあった保健指導を実施する。毎月、保健目標にあった掲示をする。	A	①体力の向上については、週に1度のペースで20分休みになわとびに取り組みすることができた。毎回の記録から目標を定め、努力を重ねていた。また、児童たちはお互いに声をかけあい、80%以上の児童が積極的に体を動かそうとしている姿が見られた。 ②朝食アンケートの実施を行った結果、喫食率は100%であった。アンケートの結果をもとに全体指導および個人指導を行った。栄養指導については、週に1度「赤黄緑」の栄養の確認を児童が行っている。マナーについては随時指導を継続中。 ③学期に1回の発育測定は予定通り実施でき、個別指導はもちろんで、測定結果を保健や算数の授業に活用することができ、児童たちは自分の身体の成長に興味を持つことができた。朝の会でのミニ指導や保健だより、掲示物などを活用し健康情報を発信することができた。	A	・外でよく遊んでおり、遊ぶ中で体力もついている。 ・食事のマナーについては、給食時間中に自然と教育できていると思う。 ・児童の健康のために先生たちもいろいろ取組んでおられることはすばらしいことだと思う。	池田 吉本
	●業務改善・教職員の働き方改革の推進	●業務効率化の推進と時間外勤務時間の削減	●教育委員会規則に掲げる時間外在職等時間の上限を遵守する。	・船便変更日以外定時退勤を遵守する。	A	・船便変更日以外定時退勤を遵守できている。	A	

(2) 本年度重点的に取り組む独自評価項目				最終評価		学校関係者評価		主な担当者
評価項目	重点取組		具体的取組	達成度（評価）	実施結果	評価	意見や提言	
	取組内容	成果指標（数値目標）						
◎志を高める教育	○地域の未来について考えることのできる児童の育成	○自分の行動を客観的に捉えさせ、自己変容を確認することで80%以上の児童が成長を感じる。	①キャリア・パスポートに学習活動や行事等の目標を書き、見直しを持って活動して振り返りまで行う。学期末ごとに今までの振り返り、自己変容を確認させる。 ②総合的な学習の時間に地域の人と接することで今の自分にできることを考えさせる。	A	・キャリア・パスポートに学習活動や行事等の目標を書き、見直しを持って活動ができた。全員、学期末ごとに今までの振り返りについて自己変容を確認できた。 ・アンケート「自分の夢を実現するためにできることを考えている」の「そう思う」「大体思う」で100%だった。総合的な学習の時間にも、自ら学習課題を立てることができるようになり、そのため何をすべきかを考えてから行動に移すようになった。	A	・世界で活躍している日本人のなどを学習を取り入れるのもいいのではないかなと思う。 ・郷土愛を育てるために郷土の未来や先人の苦労等について学んでほしい。 ・高島を知る学習の中で、「こんなことが高島には合うな。」ということ子どもたちに考えてもらいたい。 ・今年コロナウイルスの影響でいろいろと協力できずワカメ採りなども実施できなくて残念だった。	宮崎
○教育環境の充実	○ICT機器を活用した個別最適化学習の推進	○週に1回以上タブレットPCなどICT機器を利用する児童が70%以上。	①学習目標を達成するために、進んでICT機器を活用させる。②校内研修の中で、児童にとって有効なICT機器の活用の仕方を情報共有したり、年間1回以上ICT機器利活用の研修を実施する。	A	・全職員が週に1回以上ICT機器を使用した授業を行った。また、児童の80%が授業でパソコンやタブレットなどICT機器を使用していることを実感していた。さらに、保護者の方にも学校での取り組みを授業参観や通信などを通して理解していただいていた。	A	・ICT機器の整備など何も言うことはなく、すばらしい。	楠田

●…県共通 ○…学校独自 ◎…志を高める教育

5 総合評価・ 次年度への展望	<p>・本年度も学校教育目標に「学ぶ楽しさの追求」を掲げ、本校の重点目標である①職員の資質向上②基礎学力の定着③教育環境の充実をもとに評価項目、取組内容、成果指標について検討を行い取組を進めた。すべての項目について最終評価、学校関係者評価とも「十分達成できている」との達成度であり、総合評価も「A：十分達成できている」である。</p> <p>・次年度より本校では島留学制度がはじまり、福岡県より4名の児童を置け入れることが決まっている。児童数が増えることで、児童の実態・特質に応じた指導の工夫やコミュニケーション能力を育てる指導の工夫について取組みを工夫していく必要がある。</p> <p>・GiGAスクール構想が前倒しで実施されることが決まったことで、来年度はICT環境の更なる充実が進むと考えられる。職員の研修を進め、児童の活用が円滑に進むよう計画し取組んでいきたい。</p>
--------------------	--